

献 辞

柳赫秀先生は、2019（平成 31）年 3 月 31 日をもって本学を退職されることとなった。

柳先生は、1975 年に韓国延世大学校政法大学を卒業された後、1980 年に文部省国費留学生として来日され、1983 年に東京大学大学院法学政治学研究科修士課程を修了、1991 年に同大学院から法学博士の学位を授与されている。1989 年に横浜国立大学経済学部にて助教授として採用されて以来、一貫して横浜国立大学法律系で教鞭をとってこられ、この間、2005 年には国際社会科学研究所博士課程前期国際関係法専攻長、2007 年には同研究科博士課程後期国際経済法学専攻長、2009 年から 2 年間にわたっては法律系長（国立大学法人横浜国立大学教育研究評議会評議員）という重責を担ってこられた。

柳先生は、国際法学及び国際経済法学の研究教育に努めてこられた。とりわけ国際経済法学の研究については、博士学位請求論文をもとに書かれた『ガット 19 条と国際通商法の機能』は、それまで注目されることの少なかったガットのセーフガード条項に関する画期的研究であり、ウルグアイ・ラウンドの交渉においても日本政府の交渉官によって参照されるなど、学術的・実務的に大きな意義を有するものである。また、『貿易と関税』に連載された「WTO と途上国―途上国の『体制内化』の経過と意義」と題する論文は、今日の WTO の危機的状況を予見した労作であり、重要文献として今日もしばしば引用されている。このほかにも多数の論文を執筆し、発表することにより、学会や社会一般に発信をしてこられた。柳先生の国際経済法研究の集大成として、2018 年に『講義国際経済法』が出版されている。柳先生の学問的関心は狭義の国際経済法にとどまらず、2013 年以降はグローバル時代における国際行政法をテーマに科学研究費助成金を得て、研究を継続しておられる。また、学際的研究活動としては、国際社会科学研究院、都市イノベーション研究院その他の部局にまたがる横断的研究組織として「新国際開発研究拠点」を立ち上げ、初代拠点長として活動してきておられる。

柳先生は、横浜国立大学の学部・大学院・法科大学院における講義・演習のほか、他大学においても非常勤講師を務められ、日本における国際法教育水準の向上に大いに貢献された。ご自身がかつて国費留学生であったことから、留学生からの信頼は厚く、教育の国際化に向けての功績も大きい。また、2005 年から明治大学の故間宮勇教授と共に実務と学問の架橋を目指す「国際経済法研究会」を組織し、ほぼ毎月東京で研究会を開催することで若手研究者に発表

の機会を与え、後進の育成にも努めてこられたことは、国際経済法研究者の間で高く評価されている。

このほかにも学外における研究教育活動は多く、永年にわたり日本国際経済法学会の理事を務めてこられたほか、韓国国際取引法学会国際理事も務めておられる。日本国際経済法学会と韓国国際取引法学会は相互に国際学術集会を開催するなど、他学会には見られない独自の国際交流活動が続けているが、これはひとえに永年日本国際経済法学会の国際交流委員長を務めてこられた柳先生の功績である。

このほかの国際的活動としては、1995年に米国 Harvard Law School に、2003年には同じく米国 Johns Hopkins 大学高等国際問題研究大学院 (SAIS) に客員研究員として滞在され、研究を進められたことを挙げることができる。柳先生は、日本の国際経済法研究を外国に発信するため、様々な国際学会、研究会においても外国語により発表をし、国際交流に尽力してこられた。母国の韓国において研究発表や講演活動を積極的に行っておられるのみならず、アジア国際法学会日本協会の研究大会（2018年7月）等において英語による研究発表を行っておられる。

柳先生の社会貢献について特筆すべき点は、永住権を有する韓国人（いわゆるニューカマー）の研究者としての情報発信に努めておられることである。韓国人研究者フォーラムの代表としての活動に加え、最近では在日本法律家協会の会長として雑誌『エトランデュテ』を創刊し、日本の外国人法制の問題点等について活発な言論活動を行っておられる。

最後になるが、小生が横浜国立大学にお世話になることになったのは柳先生のおかげであり、2003年に着任して以来合同ゼミや研究会を通じてご指導をいただいた学恩は誠に深いものがあり、柳先生のご期待に応えるだけの成果を挙げ得なかったことについては慙愧に堪えない。

ここに教員一同は、柳先生が本学及び法律系の発展のために果たされたご貢献に対して改めて心から感謝を申し上げると共に、柳先生が今後ともますますご健勝で活躍を続けられることを祈念し、本号を献呈する。

2019（平成31）年3月

横浜法学会会長
荒 木 一 郎